

また、三方の山々の山麓部等は古都保存法に基づく歴史的風土特別保存地区に指定され、凍結的な保存を行っている地域もある。これらの地域のうち、京都市が買い入れた土地もあるが、維持管理が十分に行き届いていない場所もあり、歴史的風土の保存にも望ましくない影響が現われている。

このような状況を放置すれば、歴史的風致の一つである北山林業をはじめ、京都が育んできた歴史と伝統ある歴史的風致全体に大きな影響を与えることとなる。



写真3-25 シイノキが開花し、まだらに見える大文字



写真3-26 松くい虫被害が広がる小倉山山頂付近

(5) 歴史的風致をとりまく市街地環境の課題

都市景観とは、あらゆる都市活動によって顕在化する都市の姿であると言え、第2章において示している良好な市街地環境がもたらす都市景観とは自動車が渋滞するようなまちではなく、歩行者のにぎわいによる「人が主役」のまちこそふさわしく、歩行者と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の姿が京都の歴史的風致をとりまく環境にふさわしい。

この「歩いて楽しいまち」とは、歴史的風致の構成要素である歴史文化資産や自然環境と調和した歩く魅力があるまち、だれもが歩きたくなるような安全・快適な交通環境が整ったまち、来訪者にとっても歩くことによってその価値をより深く楽しむことができるまちのことである。

しかし、春秋の観光シーズンを中心に多くの観光客が訪れ、観光地や都心部では、渋滞が引き起こされるとともに、京都の都市構造の特徴であり、歴史的風致の基盤を構成する細街路に流入する通過交通も多く、狭い歩道を多くの人々が行き交わざるを得ないという状況が生じ、市民生活にも影響を及ぼしている。

また、京都は概ね平坦な土地であることもあり、自転車の交通分担率が高く、鉄道駅周辺や都心部の繁華街などでは、放置自転車等が目立ち、京都の歴史的風致をとりまく環境に影響が出ており、これらの交通対策が求められている。



写真3-27 都心部での交通渋滞

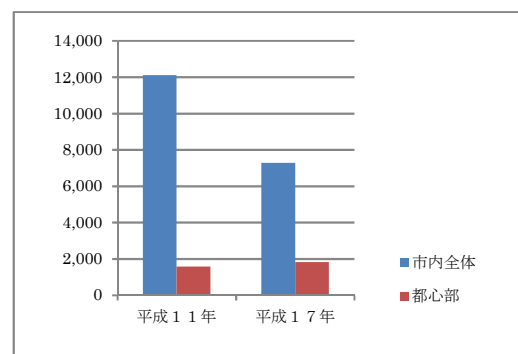


図3-9 放置自転車台数の推移

(6) 文化芸術の課題

京都において文化は、人々の日常生活とかけ離れた特別なものとして存在してきたのではなく、日々の暮らしや、生活の場である地域に根付き、その中に深く浸透しながら存在・発展してきた。

しかしながら、現在、グローバリズムの進展、社会状況の変化等により、人々の暮らしぶりや生活環境の変貌が進む中で、人々の暮らしや地域と文化芸術との密接な関係が薄れていくことが危惧されている。また、行政だけでなく、関係機関や大学、企業等が、京都の文化芸術を支える力としてそれぞれの特色ある取組を進めながら、それらの力が必ずしも一つの力に結びついていない。